

平成28年度 有明海・八代海再生及び地球温暖化対策特別委員会

管内視察の概要

■視察日程 平成28年8月5日(金)

■視察者 有明海・八代海再生及び地球温暖化対策特別委員会委員(11名)
坂田 孝志(委員長)、田代 国広(副委員長)、西岡 勝成、村上 寅美、松田 三郎
内野 幸喜、磯田 毅、西山 宗孝、岩本 浩治、岩田 智子、高島 和男

■視察先 ①塩屋漁港(熊本市河内町)残土処理護岸整備事業
②長洲町のアサリ貝回復に係る干潟環境改善実験の実施状況

■視察趣旨 有明海・八代海の再生に係る今後の委員会審議の参考とするため、次のとおり、視察を実施した。

①塩屋漁港は、県内の漁港・漁場整備事業で発生する浚渫土砂のうち、漁場造成等への利用が困難な土砂の受入場所を確保するための護岸を整備中であり、整備状況を把握する。

②長洲町、熊本北部漁協、福岡大学の産学官連携協定に基づき、長洲町の干潟でのヘドロの分解に効果があるとされる資材を置く環境改善実験(※)における漁場の回復状況等を聴取する。

※「フルポ酸鉄シリカ」砂袋の効能によるヘドロの減少やアサリの育成に効果がある旨の実験。

■視察の概要

① 塩屋漁港(熊本市河内町)残土処理護岸整備事業

県漁港漁場整備課から、平成26年度に護岸を概成のうえ、浚渫土砂の受入れを開始し、平成27年度までに約8万1千 m^3 の土砂の受入れを行った旨の説明があった。

併せて、熊本地震の発生に伴う漁港施設の被害状況及び6月の大雨による海岸漂着流木への対応状況を聴取した。



② 長洲町のアサリ貝回復に係る干潟環境改善実験の実施状況

福岡大学工学部社会デザイン工学科の渡辺教授から、長洲干潟における、木くずの発酵物や鉄などを含む「フルボ酸鉄シリカ資材」の投入が、アサリの成育に及ぼす影響の実証実験の実施状況について、説明があった。

昨年7月に実験を開始し、ヘドロが積もった約2000㎡の干潟に「フルボ酸鉄シリカ資材」を入れた砂袋を設置したところ、ヘドロの減少及びアサリ稚貝の生息を確認したとのことであった。

説明を聴取した後、委員と長洲町、熊本北部漁業協同組合、渡辺教授を交え、質疑応答を行い、実証実験の現地を視察した。

